

の浦口高典幹事長は「今後、県連内で協議していく」と話した。共産党県委員会の下角力委員長は「和歌山でも野党共闘を実現し

ていきたい」と前向きな姿勢を示したが、「具体的にどうするかはまだこれから」と話している。

(大森浩志郎、李田光)

風力発電で住民ら勉強会 紀美野「被害のおそれ」



「デメリットも知った上で必要か判断すべきだ」と話す松浦攸吉さん＝紀美野町

海南市や紀の川市など4市町に国内有数規模の風力発電所建設が計画されていることを受け、建設予定地の一つである紀美野町内で26日夜、住民らが勉強会を開いた。

計画では海南市、紀の川市、有田川町、紀美野町の

1ガニツクのものを使用。3年ほど前からは店の近くで畑を始め、無農薬で育てたブルーベリーやショウガなども商品に取り入れている。次は果物を使った酢にも挑戦したいという。「30年やっていても、パンづくりは飽きない。次々と色んなことを思いついて楽しい」と目を輝かせた。

(李田光)

山間部に、最大高さ約150メートルの風力発電機を計72基設置。最大出力は計32万4千キロワットを見込む。使用予定の風車は出力・大きさとも国内最大となる。

勉強会講師の「風力発電の被害を考える会・わかやま」世話人代表の松浦攸吉さんは、県内の風力発電所周辺住民の一部が、耳鳴りや頭痛など、低周波音が原因とみられる体調不良を訴えた事例を説明。これらの住民は風車から650メートル程度離れた場所に居住していたという。

一方、紀美野町など4市町で検討されている計画では、住宅からの最短距離は約500メートル。1キロ以内

とされる。松浦さんは「距離が近すぎ、大きな被害が出るおそれがある」と指摘。「事業者側はメリットしか説明しない。実態を知った上で住民自身が判断していく必要がある」と話した。

(白木琢歩)

カメムシに注意 大量発生 ミカンに被害



捕虫灯で捕獲された大量のカメムシ＝田辺市稲成町

果樹に被害を及ぼすカメムシが多く発生しているとして、県農作物病害虫防除所(有田川町)は26日、県内全域に注意報を発令した。田辺・西牟婁では温州ミカンが収穫期を迎えており、農家は警戒を強めている。注意報の発令は3年ぶり。

同防除所によると、有田や田辺地方などで今月上旬から温州ミカンの極早生品種に被害があり、紀北の柿園地で発生が確認されたのに加え、県内にあるうめ研究所(みなべ町東本庄)、果樹試験場(有田川町奥)、果樹試験場かき・もも研究所(紀の川市粉河)に設けている調査や捕獲のための「予察灯」で今月中旬の10日間に捕獲した数が、種類別で平年の3〜8倍に達した。そのうち、うめ研究所

ではチャが過去7倍の99カメムシ31匹だ。田辺・成町の園に捕虫00匹が以降は毎匹以上をう。みか

一さん(。IIは「今

TVで「遺品整理士」紹介された (一社)遺品整理士認定協会(民間資格)がお手伝い!

和建労は